



中部大学春日丘高校 2年SGH課題研究

「情報媒体の種類と特性」、「情報媒体の具体的な使用法」を学ぶ

課題探求学習における「情報収集」から課題テーマの決定へ

● 学習の概要

- ◆ 日時: 2016年4月30日(土)1~4時限[8:50~12:40]
- ◆ 場所: 中部大学春日丘高校 図書室
- ◆ 指導者: 柴田一平、加藤世詞、神谷俊一郎、伊藤孝征、井上和加子(図書館事務員)
- ◆ 学習のねらい:
 - ① 紙媒体や情報媒体の特徴を知り、その長所や短所を知る。
 - ② 各情報媒体がどういった内容を調べる時に有用か、より高い信頼性を得られるかを学ぶ。
 - ③ NDCマップ(個人研究を円滑に進めるために図書館で目的に沿った本を見つける方法)の手法を通じて、「個人研究のテーマ決定」へと導く。

● 学習の流れと成果

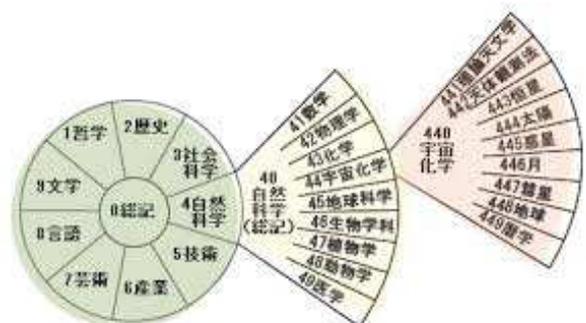
1. 情報媒体の特徴と種類を知る

- ① 自分たちの身の回りにある情報媒体の種類や特徴を知るために、身近にある情報源である Wikipedia・論文(参考書)・新聞・yahoo ニュース・ホームページの5つの情報媒体をその信頼度と新鮮度の側面から考察し、ランク付けをした。生徒によって情報の信頼度と新鮮度の解釈の仕方(定義)が違いそれぞれランク付けにはばらつきがあった。この活動を通じて、個別テーマ研究に必要な情報媒体の信頼度や新鮮度について学習できた。
- ② それぞれの情報媒体の特徴を理解した後、実際に情報媒体を使いこなせるようにするため、「消費税が上がった場合に起こり得る影響」「天気予報」「日本の赤字の総額」「日本の経済成長率の変化」「世界新記録を出したときの気持ち」といった5つのテーマを踏まえ、それぞれの内容を調査するために最も適切な情報媒体を考え、その理由を発表した。①同様、生徒の主観によって大きく異なる答えが出た。これも①と同様、個人テーマ研究時にはどのような視点に立って考えることが重要かを学ぶことができた。
- ③ 最後に教員が情報媒体についてのまとめを①②で触れた、個別テーマ研究の視点から考えることが重要であることを説明し、まとめた。

新鮮度	信頼度
1. yahooニュース ・情報が早い ・常に更新	1. 論文 ・詳しくある ・解釈は正確に行われる
2. ホームページ ・専門的な情報は早い	2. 新聞 ・専門的な書いている ・ネットニュースよりも(Abc)
3. 新聞 ・朝92回情報が入る	3. ホームページ ・その専門分野の詳しい書いている ・幅が広い(1対1)
4. Wikipedia ・更新が早い	4. yahooニュース ・よく更新されている情報 ・そのほか、他の確認するの簡単、いろいろある
5. 論文 ・更新が早い ・出た時に情報が入る	5. Wikipedia ・読者の編集で正確な信頼性がある

2. NDCマップ(日本十進分類表)を理解する

- ① 個別テーマを決定し研究を進めていくうえで、図書館の利用頻度が高まる。そこで、図書館の本がどのように分類され、どういう配置になっているのかを知るためNDCマップを理解する。これを理解すること



により効率的に図書館を利用できるようにする。

- ② 実際に学校の図書館で自分の興味のある本を探してみる。何に興味があるかを知るため、マンダラート図を利用し調べたい領域を具体化していく。できるだけ多くのマンダラート図を作成する。
- ③ NDCマップを基に自分の領域に関する本を探す。その際、WORK SHEET(必要な本か判断しよう)を使い、自分の知りたいことと一致した本かどうかを確認しながら探す。
- ④ 探した本の内容、著者、キーワードを忘れないために WORK SHEET(ざっと読もう)に簡単に内容をまとめる。

8 上記のマンダラート図から(1から9までの中から)自分が一番興味のあるものを中心に書き、図を完成させなさい。(手順は7でやったものと同じです)。できるだけ多くの表を作成してください。

1 転職	2 離職	3 コミュニケーション
4 文化-考人方	5 外国人雇用	6 人権
7 職種	8 他国で働く	9 給料

1 言語や	2 能力	3 技術-ノウハウ
4 男女差	5 職種	6 国-地域
7 国籍差	8 年齢差	9 マリット・デモグラフィ

1 自国	2 他国	3 待遇
4 下位	5 国籍差	6 言葉の習得
7 歴史	8 人種	9 (細見)

3. 個別テーマ決定に向けて知識を増やす

- ① 探した本をざっと読み、再度マンダラート図を作成する。マンダラート図を再度作成することで、さらに興味のあること具体性が増え、個別の研究テーマ決定がより確実になっていく。
- ② マンダラート図の作成がうまくいかなかったり、図を複数作成できない場合は知識不足が考えられる。再度自分の興味があることに対する知識を論文や辞典、雑誌などを読んで増やす。
- ③ 本を読み知識を増やした後、マッピングを行い、自分の興味がある領域の中からさらに具体的にテーマを絞っていく。マンダラート図→マッピング作成の手順を踏むことで自分が何に対して興味を持っているのかを客観的に把握する。



4. 全体ふりかえり

シートへの記入…各自、ふりかえりシート、ルーブリック評価表に記入し、提出。

- *「評価まとめ」の結果を見てみると、協働学習、コミュニケーション力ともにほぼ100%の生徒が肯定感を持った状態でそれぞれの学習や課題に取り組んでいると感じた。授業の取り組みや姿勢からも充実感が伝わってくる。しかし、自己評価は客観性に欠けるので他者評価を実践する必要もある。

☆大切だと思ったこと、これから実行しようと思ったこと

- ・「情報の特徴を理解して、いかに必要な情報を見つけ出してそれを使っていくかが大切だと分かった」
- ・「図書館利用のNDCマップがすごく効率的で驚いた」
- ・「情報は新鮮度と信頼度の両方とも大切だと思った。」
- ・「自分たちの考えている信頼度と新鮮度がほかのグループと違っていた」
- ・「辞典で調べることが思ったより重要」

● 今後

昨年から一年間東南アジアを対象にグローバル課題研究を進め、5月7日(土)の授業を最後に各自個別テーマを設定し、ゼミ活動を開始する。テーマの幅が大きく、具体性が深まっていないテーマ設定をしている生徒が目立つので、より具体的で明確なテーマ設定が必要だと感じている。今後はゼミ担当者(本校教員及び大学教員、大学院生)による助言、ゼミ班の協働学習、個人の調べ学習を通じてさらに個人研究を深化させていく。